

## 日本労働年鑑 第58集 1988年版

The Labour Year Book of Japan 1988

## 第三部 労働組合の組織と運動

## II 労働組合全国組織の動向

## 概要

☆ 八七年の労働組合全国組織の動向の最大の焦点は、労働戦線再編統一問題であった。  
☆ 全民労協は、一月に全日本民間労働組合連合会(「連合」)へ移行し、日本の労働組合史上最大のナショナル・センターとなった。

☆ 総評は、第七七回定期大会において、一九九〇年の労働戦線の「全的統一」、総評解体の方針を決定した。なお、総評内には、全電通・全通など八九年への繰り上げを求める動きもあった。

☆ 同盟は、連合結成の前日に開いた第二四回臨時全国大会において正式に解散し、二三年の歴史の幕を閉じた。なお、継承組織として「友愛会議」を設置し、地方同盟は独立地方同盟へ移行した。

☆ 中立労連は、一〇月の第一四回定期大会で解散し、暫定的連絡調整組織として「中立労組連絡会」を発足させた。また新産別は、第四〇回定期大会で八八年の組織解散を決定した。

☆ 統一労組懇は、八七年次総会において「階級的ナショナル・センターの骨格と展望」を発表し、ひろく左派をふくめた討論と合意形成をよびかけ、「階級的ナショナル・センター」確立へのそなえを一層強化した。

☆ 国労が提唱した「連合に行かない、行けない労組連絡会」は、「八八春闘懇談会」として、左派組合が結集した。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

\* \* \* \* 年 \* \* 月 \* \* 日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1988年版(第58集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)